

「新潟県植物保護」出版にあたって

この小冊子を通じて

身の周りの植物を 見る
知る
考える

機会をつかみましょう。

身近な植物を見ること

身の周りには多くの植物が生育しています。

人と植物との関係を知ること

どんな植物も人間の生活に結びついています。

後世に残すべき植物を考えること

多くの植物や群落の中にはいつのまにか県内から消えてしまうものがあります。

絶滅の危機にさらされている植物の実情を記録し、保護の方策を考えて、貴重な植物や群落を絶滅から救いたいと思います。

生まれ育った土地には思い出深い森や沼があり、知らず知らずのうちにその姿が脳裏にやきついていて、ふと、浮かんでくることがあると思います。故郷を離れている人は、久しぶりにその思い出の土地に帰り、その変貌振りががっかりすることも多いのではないのでしょうか。身の周りの自然を、もう一度見直して、すこしでも昔の姿に再現する方策を考えてみませんか。

第1号は、保護を訴える集会のための参考資料として、急いで「新潟県植物分布図集」からの抜刷りしたものであり、思いつきの編集になりましたが、次号からは、投稿戴いたものを主に、あまり堅くなくて、肩のこらない冊子にしたいと思います。

掲載する内容には次のものを考えています。

町や村の森や沼、みられなくなった身近な植物、わが村の神社の森、県内で貴重とおもわれる植物群落、静かな森の道、取り戻したい小さな自然、植物との出会い、県内から絶滅した植物、天然記念物の現状、この冊子に取り上げてほしい事柄など皆さんの投稿をお待ちしています。

こもれ日散る森
こもれ日散る森の中
柔らかな葉照らす光揺れる
緑の輝きに強さ弱さを見せる
光さしこむ時間と空間を求めて
草木の静かな営みを知る

大木擁した森の中
木肌つたわり水滴落ちる
よどんだ空気森を満たす
樹の肌一面こけむして
生き続ける長い歴史を知る

うっそうと繁る森の中
広く薄い葉照らす光弱まる
濃緑の色うすれて暗色に変わる
夕暮れ迫る木々の間に立ちて
静寂な森に永遠の営みを望む

—— 森の永遠を願って ——
寂清